

## 【解説】

アリストテレスの思想の特徴は、①議論の対象物をまず分類して個別に分析を重ねていく点、②物事を多面的にみつめ両極端の中庸に結論を導こうとする点、にあるように思われる。授業でもその特徴に触れながら説明していくと、アリストテレスが非常に緻密な知的議論を展開していることが感じられるだろう。

○形相には可能態と現実態の2つの側面がある。

可能態とは、形相が質料の中に潜んでいる状態（神像の原料となる大理石の中には、既に神像のイメージが潜んでいる）。

現実態とは、形相が形となって出現している状態（大理石が加工されて神像となったときに神像としての形相が現実となっている）

○形相と質料は目的と手段の関係でもある。

机は、木材や金属を材料（＝質料⇨手段）に作られた勉強道具（＝形相⇨目的）であるが、机は、学校という教育施設（形相⇨目的）を構成する材料（＝質料⇨手段）でもある。

アリストテレスは、世界は一定の目的を実現するために存在していると考えている（＝目的論的世界観）。これは、後に学ぶ「デカルト」の機械論的世界観と対極をなしている。

○人が友愛を感じる時の動機には3つある。

- ①有用性 対象を愛することによって自分が利益を得る
  - ②快楽性 対象を愛することによって自分が快楽を得る
  - ③卓越性 互いの徳に基づき、自己と対象とが互いに高めあい支え合う
- ①②は愛の対象物が自己の利益のためになっているが、③はそうではない。

アリストテレスは③卓越性こそ真の友愛であるとしている。

○正義より友愛を重視している

プラトンは正義を重視しているが、アリストテレスは究極には友愛を重視している。